

【運営委員をやってみて、良かったと実感したこと】

- ・担任だけでなく多くの先生に顔を覚えてもらえた。
- ・運営の LINE グループで忘れ物や提出物を教えてもらった。
- ・コロナ禍で一度も試合観戦することなく部活を引退してしまったのだが、練習を頻繁に見ることができた。
- ・新たな自分の才能(ペンキ塗り)に目覚めた。
- ・PTA をしていなかったら義母の介護や実親の世話に追われて子供や学校行事に目を向けていなかったかもしれません。時間は作れると学べましたし、私にとってはとてもよい息抜きになりました。
- ・子どもたちがより快適な学校生活を送れるようにトイレの環境を整えたり、ミストシャワーや自販機を設置したり、学校が対応できないようなことを PTA だからこそ実現することができました。
- ・子どもが運営の活動しているのを喜んでくれている。
- ・トイレのペンキ塗りした後に、母親も参加してペンキ塗りをしたからトイレのドア蹴ったりしないでねと友達に言っていたり、運営の活動を通して息子と会話が増えたとし、頑張ったねと誉められたりした。
- ・先生が身近な存在なんだと思った。とくに校長先生や教頭先生。ほとんど話すことない先生が話しやすい（言いたいことが言える）環境だった。
- ・自分は人見知りだし、人前に立って話すの苦手だから心配がいっぱいだったが、活動をするなかで、運営の皆の協力が得られたことが頑張れた理由。1人だけで頑張っていないと実感できる環境だったのが1番だった。
- ・他学年の保護者の方と知り合いになれること、受験とか経験された話などを聞けること。
- ・運営委員会で行事とか先に知れる。
- ・運営に入らなければ知り合いになる事も無かったであろう皆さんとお友達になれた事。
- ・皆さんとの活動中、楽しい。
- ・情報交換が有意義かつ有益な事も多い。
- ・学校に行く回数が増え、子供達の様子、雰囲気を見ることができ、親子の会話のネタに出来る事もある。
- ・委員会では校長先生からの情報や学校の動きを早く知る事が出来る。
- ・いろいろな学年の保護者の方々と知り合いになれた。
- ・話をいろいろと聞いて視野が広がった。
- ・学校の活動に関心が持てるようになった。
- ・子供が大きくなると、新しいママ友ができることも少なくなる中、今まで知り合うことのなかった色々な方面の方々、学年を超えて知り合いが増えた。
- ・なかなか学校へ出向く機会にも恵まれない中、頻繁に学校に入る機会があり、生徒の日常

を確認することができたし、先生とお話して覚えていただくことができた。

- ・子どもの学校活動が知れた。
- ・上の学年のお母さんから受験の情報が聞けた。
- ・他の小学校区のママ友ができる。
- ・コロナ禍での活動だったが、感染予防対策をしながらの運営委員会では校長先生や教頭先生のお話が聞けて、運営に入らなければそんな機会は滅多にないのでとても楽しかった。
- ・例年通りの行事は出来ませんでした、LINE で業務以外の日常生活や子育てについての相談や雑談も出来て、運営の皆さんとの絆はしっかり出来た。
- ・運営に入っていなければ交流のない違う学年、違う小学校区のお母さん達と出会えてとても貴重な経験をさせてもらった。
- ・年度が始まってから予想外に自分の仕事が忙しくなり、ほとんど PTA の役職の業務を果たせず皆さんにご迷惑をおかけしているのですが、皆さん優しくていつも助けて頂いて何とかやっています。
- ・すごいと尊敬できる人に同じ中学の保護者という共通点もあるなか出会えた。PTA を経験しなければ会うことはない。お仕事をお持ちの方がほとんどのなか、主婦業自体もマルチタスクでありながら、それをこなす見本でもあり、そんな憧れる人たちのように私もなりたいと思う気持ちになることから元気ももらっている。
- ・上の子が九中を卒業し、下の子で PTA を引き受けた。

同じ九中に通わせながら、見える景色が変わったような感覚。

学校はそういうものだろうというあきらめのようなものから、それを言葉にすることもなく過ごしていましたが、思っていたことも思ってもいなかったことも、他の保護者の考えを聞く機会となり、改めて感じることから、子どもの通う学習環境を自分ごととして考えられるようになりました。

・親の名前が次年度 PTA の欄に載った翌日から、朝の腹痛がなくなって、とびおきて元気に登校するようになりました。

・子どもたちは同じ九中生といえども、同じクラスであるとか、友達か友達ではないか、という思っているよりも狭い枠での考えにとらわれているように感じる場合があります。そんな時に、子どもの所属する枠が、親が PTA してる属性でも共通性を見いだせて、友達関係も広がったり助けあえたりしたように思いました。

・小学校区で地域のことに取り組みましたが、ないものや限界を知るばかりで、地域に関することを相談する場もなくあきらめの境地でした。九中の校区、九中生が通う通学路、という少し広い視点から、言葉にして話しを聞いてくださる方がいる！共感もある！他の感じ方も聞けた！など、この地域でこれからも住んでいけるという救いのようなものを感じました。

・一緒に運営委員をやっているメンバーを見る限り、PTA をやるとこんな特典があるからやろうと考えてなっているような方は一人もいないように思います。

やってみて知らなかったことを知れたり、自分にとってこんな良いことがあった、思いもしなかった、ということにも出会えるかもしれません。

時代がコロナ抜きに考えることができなくなり、普段できていた人間関係上の繋がりが希薄となるなか、PTA 活動という繋がりがあり、会話ができたりとても助かりました。

- ・PTA にはいったことから、自分だけのこんな特典があった！を見つけられると思います。
- ・親が PTA 活動していること自体が、この学校に通う自分の子どもの力となり励ましていると信じています。
- ・学校の先生のお名前やお顔を知れたり、話ができたりするかもしれないチャンスが、PTA をしていると一般の方よりあると思います。子どもと学校の話題などを共有する題材が手に入りやすいです。

以上